

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立松浦小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上に向けて、校内研究での算数科を中心に授業研究に取り組んできた。発問を工夫したり、伝え合い、聴き合う対話的な学び合い活動を取り入れたりしてきたが、児童の学習に対する意欲の向上までには至っていないことが明らかになった。また、家庭学習における自学ノートの取組にしても、児童の学力向上につながるような内容になっていなかった。今後も引き続き、児童の学習意欲を高め、学力向上につながるような授業づくりや自学ノートのあり方について全職員で研修を深めていく。 いじめアンケート以外に本校が定期的に行っている心のアンケートと教育相談週間については、友達関係などで悩んでいる児童の把握と問題解決に効果が上がっていると思われる。そのため、学校評価アンケートでは、保護者からも学校の対応に満足しているという意見が多くみられた。今後も継続して取り組んでいくことで児童が安心して通える学校を目指す。しかし、「ありがとうの木」や「かがやきの木」、各学級で行っている友達のよいところをほめあう時間については、内容を検討し、より子どもたちの心を耕す機会になるようにしていく。
2 学校教育目標	よく学び、よく鍛え、心やさしい児童の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 〇互いに考えを出し合い、高めあおうとする子どもの育成 〇自他の人権を守る子どもの育成

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を75%以上にする。	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	●個人でのふり返りができていないので、休業中にマイプランのふり返りを行い、3学期への見直しを持つ。	B	●学力向上シートで学校全体や個人でふり返りを行うことができた。	B	●マイプランがどんなものなのか、誰が評価するのか外部のものにはわかりづらい。学校評価として出す以上は内容がわかるものにしてほしい。
	○児童の学習意欲を高め、学力向上につながる授業づくりの実践	○県学習状況調査における県平均との差(算数0.1ポイント向上)その他は維持または向上させる。	○算数ドリルタイムをより充実させる。(基礎・基本の徹底・・・四則計算の定着) 「授業づくりステップ1, 2, 3」を教職員間で共通理解し、授業改善及び指導の向上を図る。 ●主体的に取り組む児童を育成するために、学習スタイルを選択する活動を設定する。	B	●ドリルタイムは、学年の実態に応じて、四則計算を中心に取り組むことができた。 ●授業づくりについては、全学年で共通理解のもと、おおむね取り組むことができた。 ●学習スタイルの選択する活動については、共通理解のもと、算数の時間に、学び合いの時間、ふり返りの時間に設定できた。	A	●ドリルタイムは、四則計算を中心に取り組んだが、学年の実態に合わせて思考力を問うような課題にも取り組むことができた。 ●授業づくりについては、全学年で共通理解し、学年の実態に合わせて学習スタイルの選択の仕方を工夫した。 ●全校児童に、学習スタイルを選択する活動が定着し、自分の考えを伝えようとする児童が増えてきている。	A	●宿題が多すぎるように感じる。子どももそれぞれ違うので、一様にたくさん宿題を出さないといけないのかと思う。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○各学年1回以上、自他の人権を守る大切さを学ぶ授業を実践する。 ○児童アンケート「友だちの気持ちを想像して声をかけたり見守ったりすることができたか」の割合を3.4以上にする。	●共通教材を用いた全学年での人権学習や人権教室 ●夢の広場(人権教室)の年間計画を立案し、全職員で実施する。 ●年間を通して「ありがとうの木」「かがやきの木」を掲示し、感謝する心や思いやりの心等の意識付けを行う。	B	●6年生は部落史学習全5回のうち3回を実施した。 ●共通教材を用いた人権学習は1月に実施予定。 ●夢の広場は計画通り実施できている。集会→ふり返り(作文)→夢の広場通信の流れで、保護者へも知らせている。 ●運営委員会「ありがとう・かがやき週間」を計画し、予定通り実施できている。	A	●6年生は部落史学習を予定通り5回実施した。 ●共通教材を用いた人権学習は予定通り1月末に実施した。大川小学校の職員にも参観していただき、研修を深めた。 ●夢の広場は計画通り実施した。通信で保護者へも活動内容や児童の感想を伝えた。 ●「ありがとう・かがやき週間」を1回実施したことで、感謝の気持ちや思いやりの心の意識付けを行うことができた。児童アンケートの結果は、3.5だった。	A	●学校ではあいさつするが他ではしない児童が多い。また、あいさつできない児童もいる。家庭環境も関係していると思うので、配慮しながら接している。 ●放課後児童クラブで長い時間を過ごす子、夜遅くまで塾で学習し、家ではゲームばかり。親子のふれあいが少なく、親との信頼関係の薄さを感じる。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○児童全員との個別面談を実施する。 ○児童の様子や対応を共通理解するための職員全体での話し合いの場を定期的に設定する。	●「心のアンケート」実施後、年2回、担任と児童の個別面談を行う期間を設定する。 ●毎週の職員連絡会で、気になる児童についての連絡の時間を確保し、必要に応じてケース会議を開く。	A	●計画通り「心のアンケート」を実施し、担任と児童の個別面談も行った。 ●気になる児童については、毎週の職員連絡会で共通理解を図り、必要な児童(3年男児)に対してのケース会議を1回行った。	A	●「心のアンケート」を計画通り実施し、個別面談も行った。担任の児童理解に役立てることができた。 ●毎週の職員連絡会で気になる児童の情報交換を行い、全職員で共通理解をした。	B	●朝運に登校する児童、保健室登校の児童、不登校の児童に対して、学校(教師)がどのような手立てや支援をしているのか見えない。 ●(不登校児童について)気になるし、見守っていきたくはいるが権限がないと動けない。
	◎地域人材を生かした体験活動	○公民館と協力し、地域人材を生かした学習を年に1回以上行う。 ○児童アンケート「体験活動で自分が将来やりたいこと結びつけて学習することができたか」の割合を3.4以上にする。	●地域学習において、積極的にゲストティーチャーを招く。	B	●各学年、総合的な学習の時間や生活科と関連させて、地域の方と連携した活動ができた。 ●アンケートは今後との予定である。	B	●今年度も地域の方と連携した活動ができたため、引き続き来年度も行う。 ●アンケートは児童の実態にそうものではなかったため、実施しなかった。	B	●(次年度から)コミュニティスクールになれば、協力体制ができてと思う。
	●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒60%以上。 ②自分なりのめあてを立てて、それを達成できた割合80%以上。	●全学年共通して、体育の授業開始前に運動場2周または体育館5周のランニングを取り入れ、「体力がついたと思う」の児童が80%以上を目指す。 ●早寝早起き朝ご飯の大切さを、保健だよりを通して呼びかける。手洗い指導やブラッシング指導を実施し、より良い生活習慣の確立を図る。	B	●体育の授業では、ほとんどの学年が授業開始前に運動場2周または体育館5周のランニングを行った。5分間走を行う学年もあった。「体力がついたと思う」の児童については、3学期にアンケートを実施する予定。 ●きらきらかあどの結果より、1学期における朝食をとって登校する児童は97%であった。決めた時間に寝ている児童は68%だった。テレビやゲームの時間を気をつけている児童は87%だった。	B	●体育の授業では、ほとんどの学年が授業開始前に運動場2周または体育館5周のランニングを行った。5分間走を行う学年もあった。 ●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童が81%であった。 ●朝食をとって登校する児童は97%であった。決めた時間に寝ている児童は68%だった。テレビやゲームの時間を気をつけている児童は87%だった。 ●保健だよりでの啓発や手洗い指導ブラッシング指導を通して、より良い生活習慣の意識を高めることが出来た。	B
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ●月45時間以内、年360時間以内	●毎週金曜日及び第3水曜日を定時退勤日とし、17時施設を原則とする。 ●一人一人が自分の仕事のやり方を見直し、タイムマネジメントを行う。	B	●学期末や行事等が続くと時間外勤務時間が月45時間を超える職員が数名みられた。 ●業務の効率化と時間外勤務時間の削減についてC評価の職員も数名みられる。	B	●行事や学年末など、時期によって全職員が一斉に定時退勤するのは難しい。職員個々の時間外勤務を減らすことを考えるとそれぞれの職員が定時退勤する日を設定する方が望ましい。	B	●家庭学習のために教師が準備しているものをみると、わざわざそんなことに時間と手間をかけずにもっと効率よくできないかと思う。
	○学校行事の精選、スリム化を図る。	○1つ以上の精選及び1つ以上のスリム化を行う。	●学校行事ごとにカエル(変える・帰る)会議を設定し、DCAPサイクルを回す。	B	●コロナ禍の影響で、芸術鑑賞の削減、運動会の短縮などややスリム化を図れた。しかし、2学期前半に行事が集中し、多忙さを感じた。 ●年度末に行事の反省を行う予定である。	A	●行事精選の一つとして家庭訪問を実施しなかった。多忙化対策として業務改善につながった。他にも時期をずらしたり短縮したりして、その目的に沿った活動ができた。	B	●行事のための行事になっていないか。 ●行事が苦しいものになっていないか。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○職員アンケート「年度当初と比べ、特別支援教育に関する専門性が向上したと思う」の割合を3.7以上にする。	●特別支援教育に関する研修会を実施 ●ケース会議の開催、情報共有	A	●特別支援教育に関する専門性が向上した教員は58%であり目標を上回っている。 ●ケース会議に関しては、担任の要望や、級外や支援学級担任の気づきなどがあった時点ですぐに行うことができた。 ●毎週、気になる児童についての共通理解を図る時間をとったので、全職員で対応することができた。	A	●特別支援教育に関する専門性が向上した教員は58%であり目標を上回っている。 ●ケース会議に関しては、担任の要望や、級外や支援学級担任の気づきなどがあった時点ですぐに行うことができた。 ●毎週、気になる児童についての共通理解を図る時間をとったので、全職員で対応することができた。	B	●学校評価アンケート(職員)の結果と進捗状況の58%という数値が矛盾しているのではないか。
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	●	●	●	●	●	●	●
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	●	●	●	●	●	●	●
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(保護者・教師)を中間評価の時期に実施したが、次年度は最終評価の前に実施した方が保護者も評価しやすいと思われる。 学校(教師)が思っている以上に保護者からは学校の様子が見えにくく、関係者からも評価しにくいことが明らかになった。改善の必要性を感じる。 より客観的な評価にするために数値化しやすい取り組みを設定したが、評価のための評価にならないよう、次年度は成果指標の検討が必要である。 								